
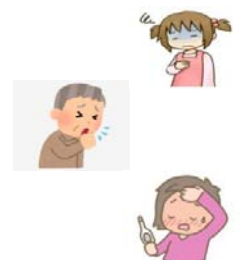


支部誓願達成に向けて

令和三年・宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年の大佳節まで「一年に一人が一人の折伏を」の実践を個人の目標として、本年残りの信行活動に邁進して下さるようお願い致します。

新型コロナウイルスによる感染症が終息には至っておりませんが、御住職様の御指導より、朝夕の勤行および支部唱題会に関して平常通りとなりました。第2波の感染も発生していますので、参詣の際は細心の注意を払い、下記の「新型コロナウイルス感染症への対応」を確実に実践して下さいようお願い致します。

日	月	火	水	木	金	土
7月16日(日)ひねもす唱題会 割り当て 午前 8時～午前10時 横浜北総地区 午前10時～午後12時 京浜総地区 午後12時～午後 2時 川崎中総地区 午後 2時～午後 4時 川崎北総地区						1 一日詣り/永代経 (午前10時)
						支部唱題会
2 広布唱題会 (午前9時)	3	4 棚経	5 棚経	6 棚経	7 棚経	8 寺院清掃 (午前11時)
午前10時		午後7時		午前10時		午前10時
9 御報恩御講 (午後1時)	10 棚経	11 棚経	12 棚経	13 御報恩題目講 (午後7時)	14	15 盂蘭盆会(旧) (午後1時)
午前10時		午後7時		午前10時		
16 ひねもす唱題会 (午前8時～午後6時)	17	18	19 広布推進会 (寿照寺/午後7時) 代表者3名	20	21	22 寺院清掃 (午前11時)
午前10時		午後7時		午前10時		午前10時
23	24	25	26	27 棚経	28	29 棚経
午前10時	午前10時	午後7時	午前10時	午後7時	午前10時	午前10時
30 棚経	31 棚経	<p>【重要】新型コロナウイルス感染症への対応について</p> <p>新型コロナウイルスは感染力が強いため、多くの人が集まる行事等などでは集団感染の恐れがあるため、支部として参詣の自粛をお願い致します。参詣する場合は万全の態勢で、マスク着用、参詣時のアルコール消毒などの徹底をお願い致します。また、発熱・咳・体調不良など体に異変がある場合の参詣は御遠慮願います。</p>				
午前10時	午前10時					
						



御法主日如上人猊下御指南 令和二年六月度広布唱題会の砌

さて、大聖人様は『中務左衛門尉殿御返事』のなかで、疫病について御指南あそばされております。今、解りやすく、口語体にして申しますと、

「今の日本国に、去年から今年にかけて流行している疫病は、四大、すなわち地・水・火・風の不順によって起こる四百四病ではないから、たとえ名医である華陀や扁鵲の治療を受けても治るものでもない。また、小乗教や権大乘教の教えをもって治るような軽いものでもない。故に、諸宗の者達がいかに祈っても、その甲斐はない。否、かえって重くなるだけである。また、たとえ今年は一時止むとしても、年々に募って、最後に一大事が起こるのちに、初めて治まるのかも知れない。法華経の譬喩品には、病の根源を知らずして、その病を治療すれば危険なることを説いて、『もし、医術に依って病を治療すれば、他の病を併発し、もしくは病気の勢を増し、もしくは死に至るであろう』とある。また涅槃経には『王舎城の阿闍世王が皮膚病にかかった時も、それは心から起こった病気であって、単なる肉体的な病気ではないから、医薬をもって治療しても、けっして治る道理がない』と説かれている。そこで妙楽大師も涌出品の『文句記』に『智者はその起因を知り、蛇は自ら蛇を知る』と言われている。今の疫病は、かの阿闍世王の皮膚病のようなものである。かの阿闍世王の皮膚病が釈尊でなければ治らなかつたように、今の疫病は単なる肉体的疾患ではなくして、謗法に起因するのであるから、その疫病を除くのは法華経でなければ治することはできない」 (御書一二四〇頁)と仰せられています。

まさに、猛威を振るった疫病も、根本的には法華経、すなわち本門寿量品文底下種の南無妙法蓮華経の良薬でなければ治することはできないと仰せられているのであります。

されば『太田入道殿御返事』には、
「平等大慧妙法蓮華経の第七に云はく『此の経は則ち為れ閻浮提の人の病の良薬なり。若し人病有らんに、是の経を聞くことを得ば病即ち消滅して不老不死ならん』云云」 (御書九一一頁)

と、妙法の広大なる功德について、かくの如く仰せられています。
今、日本をはじめ世界に蔓延している新型コロナウイルス感染症も、根本的にはこの御教示の通り、妙法蓮華経の大良薬をもって治ることが肝要であることを知るべきであります。

大聖人様は『上野殿御消息』に、
「然る間釈迦・多宝等の十方無量の仏、上行地涌等の菩薩も、普賢・文殊等の迹化の大士も、舍利弗等の諸大声聞も、大梵天王・日月等の明主諸天も、八部王も、十羅刹女等も、日本国中の大小の諸神も、総じて此の法華経を強く信じまいらせて、余念なく一筋に信仰する者をば、影の身にそふが如く守らせ給ひ候なり。相構へて相構へて、心を翻へさず一筋に信じ給ふならば、現世安穩後生善処なるべし」 (御書九二二頁)と仰せであります。

されば今こそ、一人ひとりが妙法の広大無辺なる功德を拝信し、いよいよ強盛に自行化他の信心に励み、もっていかなる病魔も打ち砕き、力強く前進していくことが肝要であります。